

公益社団法人日本臨床細胞学会
2019年度第1回理事会議事録

日時：2019年4月20日(土)12:00～14:30

場所：TKP 東京八重洲カンファレンスセンター

役員総数：40名（理事 38名、監事 2名）

出席総数：理事 29名

（理事）青木 大輔，石井 保吉，板持 広明，伊藤 仁，伊藤 潔，井上 健，
植田 政嗣，小笠原 利忠，岡本 愛光，小田 瑞恵，加来 恒壽，加藤 久盛，
川本 雅司，小松 京子，齋藤 豪，佐藤 之俊，竹島 信宏，都築 豊徳，内藤 善哉，
中村 直哉，羽場 礼次，廣岡 保明，藤井 多久磨，前田 一郎，三上 芳喜，
森井 英一，森谷 卓也，山城 勝重，横山 正俊

（顧問）長村 義之

（監事）佐々木 寛，土屋 眞一

（総務委員会幹事）星 利良，松浦 基樹，三宅 康之，山下 博，和田 直樹

（制度審議委員会委員陪席）丸 喜明

（会計士）中田 ちず子

欠席者：

（理事）池田 徳彦，稲山 嘉明，榎本 隆之，九島 巳樹，生水 真紀夫，白石 泰三，
寺本 勝寛，長尾 俊孝，八重樫 伸生

（総務委員会幹事）小倉 豪，藤山 淳三

（制度審議委員会委員陪席）平田 哲士

報告事項

理事長挨拶（青木大輔）

これまでの活動を振り返る挨拶が行われ、方針として、特に会員との密なコミュニケーションや学会運営の効率化（収集した会員メールアドレスを利用した電子メールの活用など）を重視してきたことが報告された。今後も各先生方から忌憚のない御意見を出して頂き、これらの方針に益々みがかきのかかることが期待される。そして、今まで各先生方からいただいた御協力に謝意が述べられた。

副理事長報告（内藤善哉、加来恒壽、植田政嗣、佐藤之俊）

内藤副理事長（学術・編集・国際交流・IAC）、加来副理事長（認定試験・検査士・教育）、植田副理事長（専門医制度）、佐藤副理事長（総括・財務・渉外）から各種業務が適切に行われてきた旨の報告が行われた。それぞれの副理事長から、これまでの活動を振り返るとともに、各先生方への謝意が述べられた。また、佐藤副理事長（次期理事長候補）から、今後、特に学術研究活動を活発にしていきたい旨の方針が報告された。

大会準備状況報告

第 60 回春期大会（竹島信宏、京王プラザホテル・NS イベントホール、2019 年 6 月 7 日（金）～9 日（日））、第 58 回秋期大会（森谷卓也、ホテルグランヴィア岡山・岡山コンベンションセンター、2019 年 11 月 16 日（土）～17 日（日））、第 61 回春期大会（佐藤之俊、パシフィコ横浜、2020 年 6 月 5 日（金）～7 日（日））、第 59 回秋期大会（伊藤仁、パシフィコ横浜、2020 年 11 月 21 日（土）～22 日（日））、第 62 回春期大会（生水真紀夫、幕張メッセ、2021 年 6 月 4 日（金）～6 日（日））に関して、それぞれ準備状況の報告が行われた。

前回議事録

前回（2018 年度第 3 回理事会）議事録の確認が行われた。

2019 年度総務庶務報告（2019 年 4 月 15 日現在）：森井総務委員長

全会員数：12,550 名

（正会員 5,599 名、準会員 6,733 名、名誉会員 41 名、功労会員 159 名、図書会員 18 件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：2,965 名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,612 名、細胞診専門歯科医 74 名）

FIAC：106 名 MIAC：30 名

細胞検査士数：7,714 名（実数）（認定 10,101 名）

CT(IAC)：4,482 名

物故会員（2019 年 1 月 16 日～2019 年 4 月 15 日）

名誉会員 藤原 篤 殿

準会員 吉岡 均 殿（平成横浜病院 臨床検査科）

遠藤 三佳 殿（静岡市立静岡病院 病理検査室）

野本 清明 殿

竹田 佳織 殿（関西労災病院 中央検査部）

黙禱

最優秀論文賞：中村学術委員長

英文論文 2 名、和文論文 1 名の応募があった 2018 年最優秀論文賞の選考を規定に則り慎重に行なった結果、英文論文および和文論文の最優秀論文賞を以下の方々に決定した。

[英文論文]選考委員 9 名中 6 名の投票を得た

鈴木彩葉氏／Identification of Cytological Features Distinguishing Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma from Reactive Lymphoid Proliferation Using Thyroid Liquid-Based Cytology

[和文論文]選考委員 9 名中 5 名の投票を得た

梅澤敬氏／BD シュアパス ™ 法で高度扁平上皮内病変と評価した 250 例の hyperchromatic crowded cell groups の出現頻度と細胞診断上の意義

JSCC-JH Cytopathology Tokyo Course (2019)の開催見積：森谷国際交流委員長

演者宿泊費、講演料、会場費、テキスト代、事務運営費など合計予算が 1,791,000 円（このうち 715,000 円を国際交流委員会予算として計上／2019 年 1 月）であるのに対して、参加費、ハンドアウト広告料による合計収入が 1,840,000 円であることが報告された。

台湾臨床細胞学会主催の国際学会：森谷国際交流委員長

International Cytopathology Symposium in Taipei の開催案内（2019 年 6 月 29 日～30 日）があった。

細胞検査士養成所の閉講：加藤細胞検査士委員長

2021 年度の受講生（第 43 期）の卒業をもって東京都がん検診センター細胞検査士養成所が閉講されることになった。

IAC 連絡委員会の報告：長村 IAC 連絡委員長

長村先生が Web 会議・テレビ会議システムにて本理事会に出席し、IAC 連絡委員会の報告が行われた。

細胞診専門医資格認定試験施行細則の変更：川本制度審議委員長

細胞診専門医資格認定試験受験申請に際して、日本臨床細胞学会雑誌と Acta Cytologica に掲載の論文は論文 2 本分として取り扱うように施行細則が変更された。本件について関連委員会で具体的な運用を進めていく。

審議事項

1. 総会開催日時・場所の決定：可決；2019 年 6 月 8 日（土）京王プラザホテル南館エミネンスホール（第一会場）5 階で 16 時 30 分より 2019 年度社員総会が開催されることが決議された。

2. マイナンバー未提出者について：岡本計理委員長

学会事業で謝金を支払う場合、マイナンバーを提出してもらってから支払いを行っているが、マイナンバー未提出者がいるため、何名か謝金支払いが滞っている。そこで、現在未提出の学会員および今後支払いを行う学会員に、督促 2 回目から「マイナンバーを未提出の場合、ある一定の期間が過ぎた場合は細胞学会に寄付をしたものとみなす」という一文を送付し、未払分については学会寄付金として処理する。なお、非学会員にはこの文言は使用しない。：可決

3. 細胞検査士資格認定試験二次試験における面接について：加藤細胞検査士委員長

面接廃止を可決。今年度は面接を行うが、来年度から面接を廃止する。組み合わせていたスクリーニング、同定、手技の微調整を行うが、このまま面接を廃止するだけとする。

4. 子宮の日無料配布冊子について：小田渉外・広報委員長

細胞検査士会 伊藤 仁会長より子宮の日無料配布冊子（冊子名「まもること」）の作成・印刷の提案を受け、2019年から日本臨床細胞学会が請け負うか否について検討した。本会が学会事業として費用を全額負担して現行と同様の冊子を作成することは困難と判断した。しかし、協賛金等の協力なら可能かもしれないので、細胞検査士会から新たな提案があれば継続して審議していく方針を可決した。

5. 日-中 合同カンファレンスにおける寄付金の必要性について：森谷国際交流委員長；継続審議

6. 細胞診専門医領域講習1単位、細胞検査士 JSC5 単位、IAC5 単位が認定されている「細胞診従事者生涯研修講座」を e ラーニング教材として順次アップしていく（計 18 回）。細胞診専門医は各コンテンツの e ラーニングによる単位取得が細胞診専門医委員会で承認されている。現在、検査士については e ラーニング聴講に対して更新単位は付与されていないが、細胞診専門医と同様に検査士についても e ラーニング聴講で単位を付与してはどうかとの提案がされ、今後、継続して審議することとなった。：植田細胞診専門医制度改革推進ワーキンググループ委員長；継続審議

7. 2019ICC トラベルグラントについて：中村学術委員長

2019ICC トラベルグラントについて、研究助成金を1名につき10万円とし、募集研究数を10名程度とすることが可決されていた。本件に関して、14名の応募があり、学術委員会委員23名の公正かつ厳正な選考により、11名を採用候補者としたことについて：11名の採用を可決。選考過程を記録に残す方針が確認された。

8. 2018年度決算案について：岡本計理委員長

2018年度の決算案が提示され、土屋監事から以下2点の報告があった。

監査報告(1) 理事の職務の執行に関する不正行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められない。

監査報告(2) 計算書類およびその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産および損益の状況をすべての重要な点において適正に示している。

内容について詳細に審議した結果、満場一致でこれを承認した。なお、黒字の使い道として、専門医更新料が入ってこない年度への備え、公募研究費・学術研究費、特定臨床研究、学会事務局整備に充当する方針が確認された。具体的には、2017年度の収支相償判定における余剰金406万円については、公募研究費・学術研究費として410万円を特定費用準備資金として計上することとし、2018年度における収支相償判定における余剰分については、今後、専門医会及び検査士会の更新料が入ってこない年度への備えとして1,400万円を特定費用準備資金として計上することが確認された。

9. 2018 年度事業報告案について

2018 年度の事業報告案が提示され、土屋監事から以下の報告があった。

監査報告：事業報告は、法令および定款に従い、法人の状況を正しく示している。

内容について詳細に審議した結果、全員異議なくこれを承認した。

10. 2019・2020 年度理事候補および監事候補について

2019・2020 年度理事候補および監事候補が提示され、全員異議なくこれを承認した。

11. 2019 年度名誉会員候補及び功労会員候補について

2019 年度名誉会員候補及び功労会員候補が提示され、全員異議なくこれを承認した。

12. 細胞診専門医制度改革推進ワーキンググループの業務内容は、今後、他のワーキンググループ・委員会の業務内容に含めることが出来るので、細胞診専門医制度改革推進ワーキンググループを終了させることについて：植田細胞診専門医制度改革推進ワーキンググループ委員長；可決

以上で本理事会の議題が終了し、加来副理事長の閉会挨拶をもって本理事会を終了した。

2019年 5月 30日

この議事録が正確であることを証します。

理事長

青木大輔 

監事

佐々木寛 

監事

土屋良一 